



目次

◆支部の動き	1		4
■支部報 保護・調査記事関連トピックス	1	■会員数	4
◆事務局からのお知らせなど	3		
■日本野鳥の会二本松の認定取消	3		
■連携団体（支部等）代表者・事務局変更のお知らせ	3		

◆支部の動き

■支部報 保護・調査記事関連トピックス

本記事は日本野鳥の会へ送付されてきている各地の支部報/会報から抽出して作成し、調査・保護に関心がある野鳥の会の会員へ配信しております。本記事の一部又は全部を不特定多数が見る可能性があるところへ公開される場合は、各支部/各会の了承を事前に得て下さい。記事は筆者の意向に反しないように、取り扱いをお願いします。

NO. 928

- 2019/2 オホーツク
 - ・オホーツク元旦スズメカウント
- 2019/2-3 宮古
 - ・2019 年オジロワシ・オオワシ斉調査
- 2019/1-2 盛岡
 - ・イーハトーブ盛岡保全管理協議会
- 2018/12 福井県
 - ・中部ブロック会議
 - ・イソヒヨドリの子生分布拡大
 - ・ノジコ
 - ・初めて観察されたオオアジサシ
- 2019/2 福井県
 - ・福井市のオナガのテリトリー
 - ・首輪のついたコハクチョウ
- 2019/2 兵庫
 - ・福島子どもたちへの支援探鳥会
 - ・ツグミ科の鳥って・・・
- 2019/3 長崎県
 - ・県民鳥オシドリ県下一斉カウント

- 2019/2 オホーツク
 - ・オホーツク元旦スズメカウント
- 30 件の情報が寄せられた。50 羽以上 2 地点、30～49 は 5 地点、10～29 は 7 地点、9 羽以下は 10 地点が確認された。見当たらない地点は 4 であった。一時北海道

で冬期のスズメを見ないとあったが、寒い冬でもスズメは結構いる。

（オホーツク「ばあどこおる」NO. 381, P2）

- 2019/2-3 宮古
 - ・2019 年オジロワシ・オオワシ斉調査
- 2/17、岩手県内 25 箇所で調査した。沿岸部合計 8 羽（オオワシ成 3、同幼 2、オジロワシ成幼各 1、識別不明 1）。内陸部合計 8 羽（オオワシ 0、オジロワシ成 7、同幼 1）。沿岸部では昨年よりオジロワシ 6 羽も減り、河川を遡上するサケが減っているのが要因と思われる。暖冬で北海道から南下する個体が少なかったのかも。

（宮古「ミサゴの海」NO. 264, P2～3）

- 2019/1-2 盛岡
 - ・イーハトーブ盛岡保全管理協議会
- 1/26、盛岡市で日本野鳥の会本部が所有する「野鳥保護区イーハトーブ盛岡」に関してイヌワシの生息環境について、情報、意見交換を行った。伐開地の樹冠部開放手段として巻枯らし（樹皮の一部を剥皮して、ゆっくり枯らす）があり、キツツキ、カラ類の営巣木として有効。風車の影響モニタリング、イヌワシ個体識別のため写真撮影を認可。出席者は盛岡市環境企画課、日本野鳥の会本部、岩手県自然保護課、東北環境研、岩手大学野鳥の会、当支部である。

（盛岡「山翡翠」NO. 386, P2）

- 2018/12 福井県
 - ・中部ブロック会議
- 11/3、新潟市での会議より。支部としては連携調査は懇意で楽しむ以外に、データを収集し保護に役立てたい。カンムリカイツブリは日本海側で繁殖分布拡大傾向。ミヤコドリは三重県支部で調べる。ブッポウソウは長野、岐阜で繁殖、石川で巣箱架設計画中。ブナ林での生息状況を調査する。ライチョウは岐阜、長野、静岡、山梨、富山、新潟で繁殖、ライチョウ会議とは違うアプローチをする。ジョウビタキの越冬、繁殖は長野、岐阜で急激に増えている。嘗てのハクセキレイ繁殖域急増に似る。

（福井県「つぐみ」NO. 188, P9）

・イソヒヨドリの生息分布拡大

中部地方の21支部より、10年間で1469件のデータが集まった。イソヒヨドリが顕著に内陸部へ分布拡大しているようには見られない。1970～2008年に既に内陸へ拡大していた。河川沿いに広がったと思われる。まとめを2018年の中部ブロック会議で報告した。この活動を全国に拡大し、自然保護団体としての本分発揮を本部に願う。

(福井県「つぐみ」NO. 188, P10)

・ノジコ

9/29、福井市自然史博物館で学芸員の話聞いた。ノジコは石川県から青森県で繁殖し、何れも、豪雪地帯である。個人の仮説として、アオジは大陸を制覇していたが、日本が大陸から離れたとき、ノジコの種が現れた？北海道が大陸から別かれたとき、北海道のアオジが一部が本州に渡った？ノジコに分布が局地的なのはアオジに追われた結果かも。

(福井県「つぐみ」NO. 188, P11)

・初めて観察されたオオアジサシ

9/15、敦賀湾でアジサシ40+、コアジサシ2の中に、3羽のオオアジサシ(*Sterna bergii*)が撮影された。小笠原諸島、尖閣諸島で繁殖し、日本本土でも記録はあるが、福井県では初記録である。福井県を通過した台風の影響であろう。

(福井県「つぐみ」NO. 188, P12)

●2019/2 福井県

・福井市のオナガのテリトリー

福井市内で1年間、センサス調査した。9地点で群れが観察され、その個体数は3～21羽であった。その内7地点で繁殖が確認された。交通量が多い道路周辺、人間活動が大きい環境下を利用するのは人の存在を利用しているとも考えられる。

(福井県「つぐみ」NO. 189 日, P8)

・首輪のついたコハクチョウ

12/24、小浜市の田に2羽のコハクチョウを見る。1羽の首輪にはおそらくGPS発信器が付いており、撮影された足輪から2017/8/3、ロシアの北緯68°49'、東経170°34'付近で放鳥され、2018/1～2、滋賀県内で見られている。2016年からロシアと中国の共同でコハクチョウの追跡調査が行われている内の1羽である。

(福井県「つぐみ」NO. 189 日, P12)

●2019/2 兵庫

・福島の子どもたちへの支援探鳥会

12/9、「原発事故で外遊びもままならない福島の子どもたちへの支援探鳥会」が県内4箇所で行われた。カンパ金は福島県日本野鳥の会連携団体連合会に送金された。

(兵庫「コウノトリ」Vol. 228, P13)

・ツグミ科の鳥って・・・

日本鳥類目録改訂第7版(2012/9)では分類順が変わり、キジ目キジ科から始まり、スズメ目ホオジロ科で終わっている。(従来はアビ目アビ科～スズメ目カラス科)。新しい図鑑では探している鳥の頁を開くのが難し

い。従来スズメ目ツグミ科があったが、ヒタキ科にまとめられている。科の下に属に入れている。ヒタキ科トラツグミ属、ツグミ属、ノゴマ属、ルリビタキ属、ジョウビタキ属、ノビタキ属、イソヒヨドリ属、サメビタキ属、キビタキ属、オオルリ属となっている。

(兵庫「コウノトリ」Vol. 228, P15)

●2019/3 長崎県

・県民鳥オシドリ県下一斉カウント

1/13、離島を含む長崎県下87箇所調査した。オシドリ♂1,333、♀747、不明183、合計2,263で(前年2,173)あった。

(長崎県「つばさ」NO. 375, P14～16)

NO. 929

●2019/3 札幌

・羊ヶ丘の鳥

・海辺のカフカ

●2019/3 茨城県

・勤労統計もかよ！

・ハス田で夜間撮影しています

●2019/3 東京

・月例探鳥会で英会話

●2019/3 神奈川

・きれいな花も要注意

・シロハラは腹は白いか

・街で保護したセグロアジサシ

●2019/3 南富士

・ベンケイヤマガラ

●2019/3 徳島県

・秋に鳴門から淡路島へ渡るメジロ

・ちょっと気になる野鳥の和名カラス

●2019/3 熊本県

・タカ類渡り観察の歴史

●2019/3 札幌

・羊ヶ丘の鳥

羊ヶ丘実験林(150ha)は約110年前の山火事での再生林である。ここでは30年間、野鳥の標識調査がされている。放鳥数は約6万2千羽で、多い順にアオジ19,285、ルリビタキ6,621、クロツグミ6,329、ヤブサメ5,551、メジロ4,217、ウグイス3,118、キビタキ2,885、ノゴマ2,481、クロジ2,203、シジュウカラ1,863。アオジは減り、クロジは増えている。夜のコノハズクは2000年頃まではかなりいたが、2018年は2羽のみ。

(札幌「カッコウ」NO.411, P4～9)

・海辺のカフカ

村上春樹「海辺のカフカ」は主人公名からの借用であろう。村上氏は鳥の知識、興味は無いであろうが、カフカはチェコ語で物語を象徴するカラスである。kavkaは映像を見ると、ニシコクマルガラスである。

(札幌「カッコウ」NO.411, P10)

●2019/3 茨城県

・勤労統計もかよ！

見せかけの数値で国家財政の破綻を隠したギリシャの二の舞と思わせる、国の基幹統計のいい加減さは今後の国家運営の危うさを連想させる。狩猟統計はハンターが申告した捕獲野鳥数を積み上げたもので、保護鳥は撃っても統計には出ない。捕獲数が年々減れば、鳥獣保護区が増え、ハンター自身が困る。鳥獣被害統計もその数値は信じろとある。茨城県のカモによるレンコン被害額は、防鳥網が敷設される前の2001年は550万円が2002年はその6倍に増え、2008年は3億9千万円と、統計は防鳥網を張れば被害が増えるとあり、防鳥網は役立たずを証明している。
(茨城県「ひばり」NO.348,P2)

- ・ハス田で夜間撮影しています
カモ類がハス田で採食行動をするのは主に夜間である。霞ヶ浦の2箇所夜間撮影している。
(茨城県「ひばり」NO.348,P20)

●2019/3 東京

- ・月例探鳥会で英会話
昨年10月、葛西海浜公園がラムサール条約湿地に登録されたことを受け、海外にも当地をPRをしたい。外国人向け探鳥会は本部が東京港野鳥公園で年、数回実施しているが、支部もそれと連携を図る。
(東京「ユリカモメ」NO.761,P8)

●2019/3 神奈川

- ・きれいな花も要注意
増え続けている園芸外来草花がある。トキワツユクサ(別名ノハカタカラクサ)は白い花をつけ、在来種にとって脅威である。半日陰の森林内にも侵入する。更に脅威は南アフリカ原産のオオキバナカタバミは黄色い花をつける。
(神奈川「ユリカモメ」NO.562,P2)

- ・シロハラは腹は白いか
シロハラは近縁のアカハラに対比させ、白い腹と呼んだのであろう。英名でpaleが付く、青白い、淡いの意である。paleが付く鳥の色は和名では白～薄～無地～薄黒～灰色～薄茶～金色(キンメハゴロモガラス)までである。
(神奈川「ユリカモメ」NO.562,P4)

- ・街で保護したセグロアジサシ
10/1、横浜市青葉区でセグロアジサシを保護し動物園に収容した。前日の台風24号で運ばれたようで、右翼の骨折で絶命した。
(神奈川「ユリカモメ」NO.562,P12)

●2019/3 南富士

- ・ベンケイヤマガラ
ヤマガラには何種かの亜種が存在する。ベンケイヤマガラという亜種は存在しないが、通常のヤマガラの白い部分が赤褐色でオーストンヤマガラっぽい感じの羽毛の個体がいる。
(南富士「さえずり」NO.436,P6)

●2019/3 徳島県

- ・秋に鳴門から淡路島へ渡るメジロ

鳴門市では秋に淡路島(東北東)へ渡る野鳥が少なからずいる。ハイタカはその方向に移動する個体の方が多い。10種類ほどの野鳥が秋に東北東へ移動しているが、ヒヨドリとメジロは数が多い。メジロは鳴門山(標高100m)の上空に上昇すると、進路を変え鳴きながら淡路島へ向かう。春に逆コースを通る少数のメジロを見るが、冬期にかなりが落命するのか、往路と復路の違いがあるのか詳細は不明である。
(徳島県「野鳥徳島」NO.486,P8～9)

- ・ちょっと気になる野鳥の和名カラス

カラスは奈良時代からそう呼ばれてきた。その語源は鳴き声説と色の黒ス(くろす)の体色説がある。欧米ではカラスの名前は鳴き声に由来したものが多く、私は我国でも鳴き声説由来と思う。
(徳島県「野鳥徳島」NO.486,P14)

●2019/3 熊本県

- ・タカ類渡り観察の歴史
アカハラダカ：1980年、石垣島で200羽が観察されて以来、1984年には宮古島で4万羽、1985年、鹿児島県開聞岳で500羽が観察された。1986/9/14、NHKのラジオニュースで長崎県五家原岳で13,000羽のアカハラダカの渡りが報道され、熊本県天草でも通過していることが確認された。ハチクマ：1986年頃より、熊本県ではサシバ、アカハラダカと同時に観察されているが、九州北部ほど数は多くない。サシバ：1969年頃より熊本県球磨郡で渡りの記録があり、1986年より県内一斉調査が始まっている。ツミ、ハイタカ：1980年、当初は両者の区別が難しく、近年はデジカメ技術の進歩もあり、サシバの渡りの後に続いていることが分かった。
(熊本県「野鳥くまもと」NO.372,P16～20)

(自然保護室・野鳥の会・神奈川/森 要)

◆事務局からのお知らせなど

■総務室より

■日本野鳥の会二本松の認定取消

日本野鳥の会二本松から申請があった連携団体の認定取消しについて、3月19日に開催された平成30年度第4回理事会にて承認されました。

また、同支部は総会決議により平成31年3月末日を以って解散となります。これにより、平成5年に設立された日本野鳥の会二本松が26年の歴史に幕を下ろすことになりました。

長い間の活動に心から敬意を表し、謹んでお知らせします。

(総務室/五十嵐 真)

■連携団体（支部等）代表者・事務局変更のお知らせ

名称変更などがあった連携団体（支部等）についてお知らせいたします。

●日本野鳥の会根室支部

【事務局住所変更】

新) 高田令子事務局長 自宅

旧) 加藤義則支部長 自宅

変更年月日： 2019 年 3 月 22 日より

●日本野鳥の会北九州支部

【支部長、事務局長交代】

新) 支部長：川崎 実

事務局長：前田 伸一

旧) 支部長代行/事務局長：前田 伸一

変更年月日： 2019 年 4 月 1 日より

●日本野鳥の会京都支部

【事務所開所日の変更】

火曜日 13：00～16：00 （第 3 火曜日は休み）

金曜日 13：30～15：00

※祝日、国民の日の休日と重なる場合は休み

なお、毎月第 1 日曜日と第 3 木曜日は、解放日として
13：30～16：00 の間、開所

変更年月日： 2019 年 4 月 1 日より

●日本野鳥の会茨城県

【代表交代】

新) 石井 省三

旧) 池野 進

変更年月日： 2019 年 4 月 1 日より

詳細は、総務室までお問い合わせください。

TEL：03-5436-2620 Email：soumu@wsbj.org

（総務室／竹前 朝子・鈴木 美智子）

■会員室より

■会員数

4 月 1 日の会員数は 34,457 人で、先月と比べ 42 人減少しました。3 月の入会・退会者数の表をみると、入会者数は退会者数より 102 人少なくなっています。

会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

3 月の入会者数は 159 人で、前年同月の入会者数 154 人と比べ 5 人増加しました。

また、3 月の退会者数は 261 人で、前年同月の退会者数 235 人と比べ 26 人増加しました。

表 1.3 月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	10 人	13 人
総合会員（おおぞら会員）	35 人	70 人
本部型会員（青い鳥会員）	12 人	36 人
支部型会員（赤い鳥会員）	72 人	86 人
家族会員	30 人	56 人
合計	159 人	261 人
年度累計	1,876 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活する方がいらっしゃるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数とずれた数字となります。

■都道府県および支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

表 2. 都道府県別の会員数（4 月 1 日現在）

都道府県	会員数	対前月差
北海道	1,655 人	0 人
青森県	242 人	1 人
岩手県	365 人	0 人
宮城県	473 人	0 人
秋田県	246 人	-1 人
山形県	217 人	-1 人
福島県	607 人	-8 人
茨城県	881 人	-1 人
栃木県	656 人	6 人
群馬県	614 人	1 人
埼玉県	2,097 人	-2 人
千葉県	1,582 人	-1 人
東京都	4,778 人	-11 人
神奈川県	3,295 人	-6 人
新潟県	365 人	0 人
富山県	204 人	0 人
石川県	269 人	2 人
福井県	215 人	1 人
山梨県	259 人	-1 人
長野県	843 人	1 人
岐阜県	466 人	1 人
静岡県	1,315 人	3 人
愛知県	1,505 人	1 人
三重県	427 人	0 人
滋賀県	298 人	2 人
京都府	819 人	2 人
大阪府	1,978 人	-7 人
兵庫県	1,280 人	-7 人
奈良県	495 人	1 人
和歌山県	188 人	-2 人
鳥取県	181 人	1 人
島根県	171 人	-1 人

岡山県	549 人	-6 人
広島県	553 人	1 人
山口県	370 人	1 人
徳島県	314 人	0 人
香川県	190 人	-1 人
愛媛県	352 人	-2 人
高知県	127 人	2 人
福岡県	1,274 人	-6 人
佐賀県	193 人	0 人
長崎県	211 人	-4 人
熊本県	390 人	-3 人
大分県	224 人	1 人
宮崎県	249 人	-2 人
鹿児島県	320 人	0 人
沖縄県	109 人	1 人
海外	11 人	0 人
不明	35 人	2 人
全国	34,457 人	-42 人

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表3. 支部別の会員数（4月1日現在）

支部	会員数	対前月差
オホーツク支部	243 人	2 人
根室支部	80 人	0 人
釧路支部	156 人	-1 人
十勝支部	173 人	-4 人
旭川支部	84 人	0 人
滝川支部	47 人	-1 人
道北支部	27 人	0 人
江別支部	18 人	0 人
札幌支部	298 人	3 人
小樽支部	65 人	2 人
苫小牧支部	159 人	0 人
室蘭支部	148 人	-3 人
函館支部	22 人	-1 人
道南檜山	57 人	0 人
青森県支部	134 人	1 人
弘前支部	110 人	0 人
秋田県支部	235 人	-1 人
山形県支部	202 人	0 人
宮古支部	86 人	0 人
もりおか	156 人	0 人
北上支部	101 人	1 人
宮城県支部	445 人	1 人
ふくしま	158 人	-1 人
郡山支部	159 人	-1 人
白河支部	40 人	-4 人
会津支部	55 人	0 人
奥会津連合	7 人	0 人

いわき支部	109 人	2 人
福島県相双支部	17 人	2 人
南相馬	14 人	0 人
茨城県	790 人	0 人
栃木県支部	636 人	2 人
群馬	526 人	-2 人
吾妻	42 人	1 人
埼玉	1,584 人	6 人
千葉県	1,009 人	1 人
東京	2,727 人	-9 人
奥多摩支部	823 人	0 人
神奈川支部	2,276 人	-4 人
新潟県	273 人	-1 人
佐渡支部	33 人	1 人
富山	185 人	-1 人
石川	253 人	2 人
福井県	207 人	1 人
長野支部	444 人	-1 人
軽井沢支部	162 人	0 人
諏訪支部	229 人	-2 人
木曽支部	23 人	1 人
伊那谷支部	80 人	0 人
甲府支部	179 人	0 人
富士山麓支部	58 人	2 人
東富士	60 人	0 人
沼津支部	158 人	3 人
南富士支部	252 人	0 人
南伊豆	37 人	0 人
静岡支部	341 人	-1 人
遠江	398 人	3 人
愛知県支部	1,110 人	3 人
岐阜	460 人	-2 人
三重	363 人	0 人
奈良支部	446 人	-1 人
和歌山県支部	189 人	-1 人
滋賀	300 人	3 人
京都支部	775 人	2 人
大阪支部	1,869 人	-5 人
ひょうご	969 人	-8 人
鳥取県支部	200 人	1 人
島根県支部	157 人	0 人
岡山県支部	516 人	-8 人
広島県支部	479 人	-1 人
山口県支部	337 人	0 人
香川県支部	149 人	-2 人
徳島県支部	330 人	1 人
高知支部	114 人	1 人
愛媛	327 人	-2 人
北九州支部	290 人	-7 人
福岡支部	553 人	-2 人

筑豊支部	239 人	-1 人
筑後支部	154 人	-1 人
佐賀県支部	229 人	1 人
長崎県支部	193 人	-1 人
熊本県支部	390 人	-2 人
大分県支部	216 人	1 人
宮崎県支部	245 人	-2 人
鹿児島	291 人	-2 人
やんばる支部	71 人	0 人
石垣島支部	19 人	0 人
西表支部	44 人	0 人
	29,414 人	-36 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

（会員室／佐藤 ゆき乃）

支部ネット担当より

初めまして。今号から支部ネット通信を担当することになりました竹前と申します。支部と支部をつなぐ、支部と事務局をつなぐ情報をお届けできるよう努めていきたいと思っています。ご意見やご提案などありましたらぜひお寄せください。これからどうぞよろしくお願いします。

■支部ネット通信は支部の代表の方に電子メールでも配信をしています。電子メールでの配信を希望される支部の代表の方は下記メールアドレスまでお気軽にお申し込みください。

日本野鳥の会

支部ネット通信

第181号

◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2019年4月25日

◆担当

総務室 総務グループ

林山雅子/竹前朝子

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2620

FAX : 03-5436-2635

E-mail : sibu-net@wbsj.org